

## ポータブルオイルチェンジャー6L 手動式/兼用式 取扱説明書

【品番】 PTN-6,PAT-6

この度は、KIKAIYA「ポータブルオイルチェンジャー6リットル 手動式」  
「ポータブルオイルチェンジャー6リットル 兼用式」をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

- \* 本書を最後まで必ずお読みいただき、商品を正しく安全にご使用ください。
- \* 本書が必要になったとき、すぐ利用できるように大切に保管してください。



コバヤシデンソー株式会社

〒720-0843 広島県福山市赤坂町赤坂 1415-3

(MAIL) info@kikaiya.com

## ■調査及び修理をご依頼の前に

\* 故障とお考えの前に、弊社までご相談ください。

改造により故障及び損傷した場合は修理対応できませんのでご注意ください。

\* 調査を依頼される際の送料は、お客様のご負担となりますのであらかじめご了承ください。

\* 製品改良の為、予告なく仕様を変更する場合がございます。

## ■開封時

開封したらすぐに中身を確認してください。

付属品の欠品、破損、初期不良等がございましたらすぐに販売店にご連絡ください。

※商品は到着しましたら7日以内に必ず開封して中身をご確認ください

## ■仕様及び付属品

### 【手動式 (PTN-6)】

操作	手動
タンク容量	6リットル
本体サイズ	480mm×217mm
本体重量	2.1kg

### 【兼用式 (PAT-6)】

操作	手動／エア
タンク容量	6リットル
使用圧力	85-120PSI(0.58-0.82Mpa)
エア入り口	1/4 カプラ
本体サイズ	480mm×217mm
本体重量	2.3kg

### サイズ・名称

【単位：約mm】

1. ハンドル
2. 受け穴
3. 圧力逃し弁
4. 抽出タンク
5. ベース



### サイズ・名称

【単位：約mm】

1. ハンドル
2. 受け穴
3. 圧力逃し弁
4. 抽出タンク
5. ベース
6. エアバルブ (Air valve)
7. エアカプラ (Air fitting)



### 【付属品 (共通)】

■メインチューブ 10mm (長さ 1060mm)

■延長チューブ 8mm・6mm・5mm (長さ 950mm)

## ■ 注意事項

### 【作業環境について】

- きちんと整理整頓された十分に明るい換気の良い場所で作業してください。
- 不安定な場所・湿った場所・可燃物や障害物がある場所・お子様がいる場所では使用しないでください。
- 作業時は保護メガネ・保護手袋を必ず着用してください。
- 作業環境によっては、ヘルメット、安全靴、防塵用ゴーグル、防塵用マスクを着用してください。
- 袖口の開いた服装、ネクタイ、ネックレスなどは着用しないでください。長い髪も危険ですので、髪をまとめる、帽子を着用する等してください。手袋を使用する際は、滑らない手袋を着用してください。
- 疲れているときや体調が悪いとき、アルコールや薬物の影響下にある場合は使用しないでください。

### 【作業前について】

- 可動部分のずれや固着部品の破損、動作に異常がないか必ず確認してください。  
※症状がある場合、事故や破損の原因となりまので、ただちに使用を中止してください。
- ハンドルを乾いた清潔な状態に保ち、ブレーキフルード、オイル、グリースが付着しないようにします。
- 可燃性の強いもの(ガソリン・ベンジン・シンナーなど)や、揮発性の高いもの、腐食性の強い薬品などには使用しないでください。

### 【オイル交換での注意事項】

- 車種によってはオイルパンの構造により使用できない場合がございます。  
上抜きでオイルが抜き取れるか等、車両メーカーのサービスマニュアルをよく読んで作業してください。
- チューブの直径は最小で 5mm です。オイルレベルゲージの穴径が 5mm 以下の場合使用できません。
- 車両で作業するときは、必ずパーキングブレーキを掛けるか車輪をブロックしてください。
- エンジンの可動部には火傷の恐れがありますので常に近づかないでください。
- 暖機運転を行った後、車のエンジンを停止してご使用ください。
- 冬場は故障する恐れがありますので冷えた状態で使用しないでください。
- 80 度を超える温度で液体を抽出しないでください。

### 【作業中について】

- エアー動作の場合、必ず使用空気圧を守ってください。(0.58-0.82MPa)
- 作業中断時、移動時は必ずエアーホースを外してください。
- 必ず圧力逃し弁を締めた状態で作業してください。

### 【作業後について】

- 作業終了時には必ずエアーホースを外し、エアープラにオイルを注油してください。
- 使用済みオイルは地域に従って廃棄してください。
- 作業後は点検して清潔にし、乾燥した場所で大切に保管してください。
- 野外に放置するなど、直射日光に長時間あてたまま放置しないでください。

## ■使用方法(エンジンオイル交換の場合)

### 【事前準備】

オイル交換を行う車を、水平な場所に駐車し、パーキングブレーキをかけます。

5分ほど暖機運転してオイルを温めます。

※走行直後の車両は、油温が80度以下になるまで絶対に作業を行わないでください。

- ① エンジンを切り、ボンネットを開け、エンジンオイルのレベルゲージを取り出します。



- ② レベルゲージの長さやパイプの内径を確認し、使用する延長チューブを決めます。



- ③ 本体にメインチューブを取り付けます。



- ④ 使用する延長チューブをメインチューブに取り付けます。



- ⑤ 延長チューブをオイルゲージ穴からオイルパンの底まで挿入します。  
※オイルパン内でチューブが曲がる事があります。  
チューブ先が底に付いているか確認してください。



- ⑥ 本体の圧力逃し弁が完全に挿入されていることを確認してください。  
※挿入されていないと真空になりません。



## ⑦ (a)【手動の場合】

ハンドルを20回前後ポンピングすると、オイルが抽出されます。

※作業中に吸引が弱くなった場合、ポンピングを追加してください。

※過度のポンピングはタンク破損の原因となりますのでご注意ください。



## (b)【エアーの場合】

1. エアコンプレッサーを起動させ、空気圧を 0.58～0.82Mpa に設定します。

2. 本体のエアバルブが閉じていることを確認し、エアカプラにエアーホースを繋ぎます。



3. エアバルブを徐々に開くと、オイルが抽出されます。(バルブは急に開かないでください)



⑧ オイルが全て抽出されるか、最大容量になるまでは抽出され続けます。

**本体側面の印を超えると、排気口からオイルが噴き出します。**

**印が近づきましたらチューブを抜くか、エアーバルブを閉じてください。**

※気泡が混じり始めた場合は、チューブを出し入れし、吸い残しがないか確認してください。



⑨ 抽出が完了したら、エアーの場合はバルブを閉め、チューブを取りはずしてください。

⑩ 使用済みオイルの量を確認し、同じ量の新品オイルを注入します。注入後はレベルゲージを戻してください。

11 メインチューブを本体から外し、  
使用済みオイルを適切な容器に注ぎます。  
使用済みオイルはお住いの地域に  
従って適切に破棄してください。

※使用済みオイルを排出する際、  
圧力逃し弁までオイルが満たないように、  
注意して注いでください。

※傾け過ぎた場合、  
ポンプ内にオイルが入り込み、  
漏れ出てしまう可能性があります。



※兼用式(PAT-6)はエアーコンプレッサー・エアーホースが必要となります。

## ！ 注意 ！

- **本品の耐熱温度は80度です。80度を超える温度で液体を抽出しないでください。**
- **吸い上げ時に、液体が側面の印を超えると排気口から噴き出します。**  
排気口には近づかず、ポンピング時は横から作業するなど、十分注意してください。
- **使用済みオイルを排出する際、傾け過ぎるとポンプ内にオイルが入り込みます。**  
次にポンピング、またはエアーを作動すると排出口からオイルが噴き出すので、  
真横で出すなど、十分注意して作業を行ってください。(故障ではございません)

## ■その他使用用途

クーラント交換やブレーキフルードの交換、水槽の水の入れ替えなどができます。

※クーラント交換の場合、車両の暖機はせず、必ずエンジンを冷やした状態で行ってください。

## ■(PAT-6のみ)メンテナンス・オイルの補充方法



**使用前、使用後には必ずエアーカップラの口に2~3滴注油してください**

【注意】※注油は機械油を使用してください(粘度 ISO VG10~30)

※注油をしないと、能力低下や故障の原因になるばかりでなく本体内が錆びて回らなくなります。

※ご使用時に排気口から油が漏れることがありますが故障や不良ではございません。

- 定期的に点検して常に清潔に保ち、湿気のない乾燥した場所に保管してください。
- オイル作業を20~30回行ったら、軽油などで抽出タンク・ポンプ・アダプター・チューブを清掃してください。